

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標の実現に向けて、職員が一丸となり、二部会を中心に保護者・地域に対しては「つながる」、児童に対しては「主体性」の二つをモットーに「チーム須古」として職員が一丸となって取り組むことで、アンケート13項目のうち昨年度よりさらに6項目で評価値が上がった。しかしながら、2項目については評価値が下がる結果となった。 ・コミュニティスクールの学校運営協議会と連携を深め、各種団体・地域・保護者と一体となり綿密に活動を計画し、実施することで地域を生かした体験活動を効果的に行うことができた。
2 学校教育目標	正しく優しく元気よく 須古大好きな子どもの育成 ～学校・家庭・地域がにつながるチーム須古小～
3 本年度の重点目標	・道徳の研究を深め、自己を見つめ他者とより良く生きようとする児童の育成。 ・特別支援教育において、子どもの困り感に寄り添った指導を心がけ、専門機関や医療機関と連携した支援体制の工夫・改善に努め、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・学力向上対策の取組みである『須古小スリーアップ作戦』を充実させ、①授業改善②学習・生活習慣づくり③家庭学習の向上を全校的に行っていく。 ・地域を生かした総合的な学習の時間、学校行事、学級活動での体験活動に取り組み、活動を通して地域の「人・もの・こと」に関わらせる。	B	・「須古小スリーアップ作戦」の①②については、90%以上の教師が達成できたと考えている。③についても『家庭学習がんばり週間』を設定したり、自学を奨励したりしながら充実を図ることができた。 ・マイプランについて85%の教師が実践している。もう一度目当ての確認をして、90%以上をめざす。				
	◎地域を生かした体験活動の充実(愛郷心の育成)	○須古のよいところがわかり、伝えたいと思う児童の割合を85%以上にする。		A					
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分のよさや友だちのよさが分かる」児童の割合を90%以上にする。 ○授業参観で道徳の授業を年1回以上行う。(ふれあい道徳)	・人権教育の視点に立った授業や実践を行う。 ・なかよし活動を充実させ、けやきカードも効果的に活用して児童の自己肯定感を高める。	A	・「自分や友だちのよさがわかる」と回答した児童の割合は、91%(A…69%、B…15%)である。 ・縦割り班での活動(仲よし遊び・掃除)を6年生を中心に、異学年での交流がよくできている。けやきカードの活用もでき、全校放送で紹介することで自己肯定感を高めている。 ・授業参観で道徳の授業を行い、保護者に公開できた。				
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校が楽しいと思う」という児童95%を目指す。 ○QUを年2回実施し、学校生活満足群の児童の割合を増やす。		A					
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上	・食への意識を高めるために、食育授業や健康チェック調査・保健指導を実施する。 ・ジョギング・ウォーキング週間の実施、屋休みの外遊びの奨励により、健康作りへの意識を向上させる。 ・委員会活動と運動して、全校で運動に取り組む機会を設ける	A	・委員会の活動により献立の紹介や食の大切さを毎日放送した。準備や後片付けも時間内にできるようになってきた。 ・毎日の体温の調査は100%行うことができている。体調不良を訴える児童は少なかった。				
	○運動習慣の定着化	○進んで運動を楽しむ児童85%以上を目指す。		A					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・金曜日の定時退勤日を推進し、毎月第1金曜日と第3水曜日は全員退勤を奨励する。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均35.23時間 ・夏季休業中に5日間、学校閉庁日を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。また、金曜日以外に、独自の定時退勤日を設定させることで、仕事の効率化を図ることを促した。				

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育の充実	○教師の専門性と意識の向上	○保護者や職員と連携を図りながら、子どもの特性に応じた支援を行っているという保護者の割合を90%以上にする。	・巡回相談の実施と具体的な個別指導の見直し。 ・ケース会議の開催と情報共有(研修会)	A	・困り感のある子どものために巡回相談や事務所相談を実施し、具体的な個別の指導について見直しを行った。教師のアンケートでも、100%であった。継続して相談をして個別指導の改善を図ってきたい。 ・定期的に困り感のある児童についての情報交換の場を持ち、支援について全職員が共通理解をして児童に対応している。				

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------